

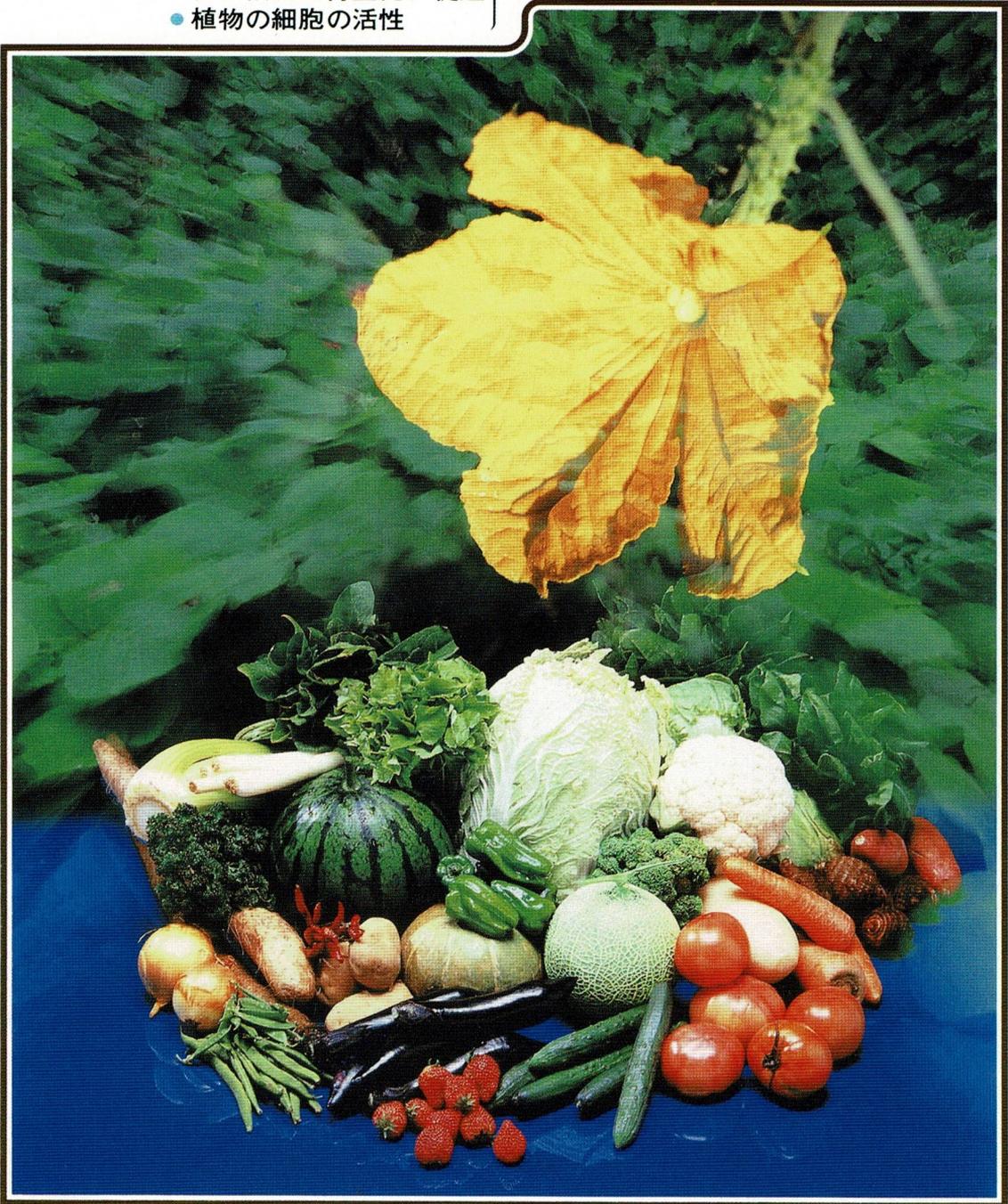
画期的な植酸理論から生まれた本邦唯一の

植酸 **コーゲン** **GEES** 055 **エース**

植酸とは…10数種の根酸の働きを拡大改良した物質のことを云う。

- その働きは…
- 土壌の化学性質の改善
 - 土壌溶液の浄化
 - 無機養分の活性化
 - 有効微生物の増殖
 - 根の細胞の再生発根促進
 - 植物の細胞の活性

このような働きをする植酸を当社が
永年に亘り研究・開発した我が国唯
一の物質であります。



製造元 **日本液体肥料株式会社**

植酸コーゲンGの土壌かん注法

作物名	使用効果	使用方法	稀釈倍数(倍)	使用回数	(10アール当り)標準使用量
きゅうり いちご とまと なす メロン すいか だいこん はくさい レタス いんげん ほうれん草 たまねぎ ねぎ ピーマン にんじん ごんにやく カリフラワー にんにく	<ul style="list-style-type: none"> ● 健苗育成に ● 新根発生に ● 果実肥大と玉の揃いに ● 着色と糖度の上昇に ● 根ぐされふちぐされの回復に ● 地ぎはぐされの防止と回復に ● 萎黄病の防止と回復に ● 健康な葉と茎に ● スジぐされ防止に ● 軟腐病の回復に ● シラキヌ菌の予防に ● 枯れ上りの防止に ● バッタン病の防止と回復に ● 雌花の着花を多くするために ● 塩類障害の防止に ● つる上りや青枯れ防止に ● 定植時の活着を早めるために ● 根ぐされ、白絹病、腐敗病、防止に ● 立枯病防止に 	育苗時期の使い方 発芽後10日目頃育苗箱1箱につき所定の稀釈液をジョーロにて1ℓ施用し十分に浸透させる	500	5日ごとに2～3回	3～5kg
		移植鉢生育期の使い方 移植鉢一鉢につき所定の稀釈液をジョーロで200cc施用し十分に浸透させる	500	3日ごとに3～4回	2～3kg
		定植直前の使い方 ベットへグリコーカルをまきその上からコーゲンG所定稀釈液を20㎡当り200ℓ施用してから2日後に定植する	500	1～2回	5～10kg
		定植時の使い方 どんな作物でもよいから所定の稀釈倍数液50ℓ～100ℓ用意して苗を日陰でドブ漬けしてから定植する	500	1回	2kg
		定植後の使い方 収穫が終るまで株元かん注として10日目ごとに1株当りグリコーカルを一つかみ施用して、その上からコーゲンG所定倍数液を1ℓ～3ℓづつかん注する	500	毎月10日ごとに(月3～4回)全生育期間を通して、6～12回	6～18kg (30～60kg)
		ベットかん注法 ベットチューブ又はパイプを使用し10アール当りコーゲンG5kgを500倍液にしたもの2000ℓ～4000ℓを10日ごとに(月3～4回)施用する	500	毎月10日ごとに2～3回	10～15kg
		通路かん注法 通路へチューブを使用し10アール当りコーゲンG5kgを500倍液にしたもの2000ℓ～4000ℓを月1回流し込む	500	毎月1回	5～10kg
鉢物 盆栽	<ul style="list-style-type: none"> ● 元気のない鉢物の発芽、発根の促進に ● 根ぐされの回復に ● 落葉の防止に ● 着花の促進に 	株元かん注法 株元へジョーロで1株当り所定の稀釈液200cc～1000cc(1ℓ)を施用する 尚、植酸コーゲンG500倍液を葉面散布すると更に効果が増します。	500	1～2回	100鉢当り200g
カーネーション シクラメン バラ 菊 花卉類	<ul style="list-style-type: none"> ● 導管病の回復に ● 発根促進に ● 軟腐病の回復に ● 白サビ病、赤サビ防止と回復に 	株元かん注法 所定の倍液1株当り200cc～1000cc(1ℓ)をジョーロでかん注する 尚、植酸コーゲンG500倍液を葉面散布すると更に効果が増します。	500	毎週1回月に3～4回	10アール当り10～20kg

植酸コーゲンGの土壌洗条とかん注効果

● 植酸コーゲンGの働き

土壌洗条 ● 土壌かん注 ● 株元かん注 ● グリコーカルと混用施用

- 植物の株元や根の廻りの土壌溶液を改善・コントロールいたしますので、チッ素・リン酸・カリのほかカルシウム・苦土・鉄・マンガン・ホウ素等微量元素を活性化し、吸収が増大します。
- 根酸の働きを助長し拡大させます。また石膏を解離し強アルカリを調整し土壌溶液をまろやかにさせますので、土壌が軟かくなり根の生長が増進し早取りができます。
- 土壌中の硫酸根や塩酸・亜硝酸など阻害物質を消化分解除去し、土壌の塩類濃度を改善いたしますので、根ぐされ・立枯れ・紋枯れ・連作障害の回復を早めます。
- 石膏による固結した土壌が分解されますので、雨水透過が良く地下水の流動が活発になります。更に酸素の循環が良くなりますので有効微生物の働きが活発に増殖され、有害菌を死滅させます。また、ネマセン虫やアカ枯れ・株ぐされ・青枯れ等の菌の繁殖を防止し作物を再生回復させます。
- 有害ガスの発生を抑え新根の発生を促進させますので、秋落水田の改良ができます。更に登熟歩合を高め千粒重の増加が大いに期待できます。
- ハウスの洗条は驚異の土壌改善ができます。
- 連作障害の土壌を若返りさせ健康な作物が栽培できます。



土壌洗条効果の比較（左側は洗条済土壌）



コーゲンG(1kg)とグリコーカル(20kg)の混合の仕方

植酸コーゲンGの葉面散布効果

- 植酸コーゲンGは植酸モリブデンを多量に含有しているため、作物の生理機能を高め、葉に蓄積された亜硝酸やアンモニアのガス化を抑え、速やかにでん粉たん白を生成します。
- したがって、厚みのある葉や茎が作られますから、エキ病・ベト病・ウドンコ病などに強い抵抗力をつけることができます。《特にコーゲン055の300倍液は防止効果が高い。》
- 植酸コーゲンGの植酸鉄・植酸マンガン・植酸苦土の含有率は、葉緑素の構成比率と同じに作られています。植酸コーゲンGの散布によって葉の葉緑素球の生成が増大し光合成率が上昇しますから、果実の肥大が促進され、良果を得ることができます。
- 植酸コーゲンGは制菌・殺菌作用がありますから、作物は生殖型の生育をします。花や雌花の着きがよく、また側枝の発生も活発になります。

■ 使い方の注意

- 農薬との混用は1,000倍液で使用してください。
- 植酸コーゲンGは有機展着剤が入っておりますので、他の展着剤の使用は必要ありません。

植酸コーゲンGのすぐれた効果

● 土壌洗条とかん注による効果

耐病性と良質多収



植酸コーゲンGの株かん注と葉面散布施用により5.8t生産したハウスいちご。

グリコーカル施用後、植酸コーゲンGかん注による(かん水チューブ利用)みごとなハウスいちご。

省エネ時代の無加温栽培



地際に発生する立枯れ病や根腐れが発生しない4月上旬の生育状況。



厳しい寒さの中での無加温栽培は植酸コーゲンGの土壌洗条と株かん注でみごとなすずりのナス。

● 葉面散布による効果

植酸コーゲンGの葉面散布により、みごとに回復したメロン・キュウリ

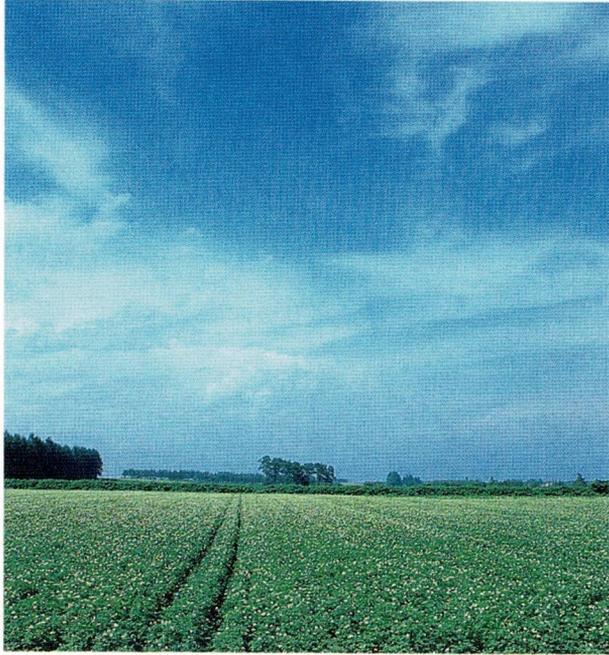


植酸コーゲンGの葉面散布法

作物名	散布時期	散布効果	稀釈倍数(倍)	散布量(ℓ)	散布回数(回)	標準使用量(10アール当り)
きうり とまと なす	育苗中 { 移植3~4日前 定植3~4日前 定植後活着時 収穫開始5~7日前 収穫中5~7日置	健苗育成	500	200	1~2	1.0kg
		活着促進・根群発達	500	200	2	1.0
		生育促進	500	200	2	1.0
		果実肥大促進・鮮度向上	500	400	月に3~4	4.0
		収穫期間延長・良質多収	500	400	〃3~4	4.0
すいか メロン しろうり かぼちゃ	育苗中(本葉3~4枚頃) 8・15・21節の出来る前頃 一番果収穫5~7日前 収穫中5~7日置	健苗育成	500	200	2	1.0
		生育促進・耐病性増強	500	300	月に2~3	1.5
		草勢助長・糖度増加	500	400	〃3~4	2.0
		品質向上	500	400	〃2~3	1.5
いちご	親株のランナー発生期 ランナー切り取り3~4日前 苗床 { 仮植活着時7~10日置 定植3~4日前 定植活着時より7~10日置 結実期7~10日置	健全ランナー育成	500	200	1	1.0
		発根及び活着促進	500	200	1	1.0
		健苗育成及び発育促進	500	300	月に2~4	2.0
		活着及び生育促進	500	400	〃2~3	1.5
		果実肥大促進と軟質果防止 品質鮮度向上と収穫期間延長	500	400	〃4~5 〃4~5	2.5 2.5
いんげん えんどう らっかせい だいずき あずき そらまめ	本葉3~4枚頃 開花前 着莢後早めに	根瘤菌肥大・増殖	700	300	2~3	1.5
		草勢伸長・着莢増加	500	300	3~5	2.5
		品質向上・草勢助長	500	300	月に2~3	1.5
たまねぎ	育苗中 { 本葉3~4枚頃 定植3~4日頃 定植後活着時 生育最盛期前~球茎肥大開始期 茎葉の倒伏直前	健苗育成	500	200	1	1.0
		活着促進	500	200	1	1.0
		生育促進	500	300	月に1~2	1.0
		球茎肥大促進	500	400	〃2~3	2.0
		貯蔵力増加	500	400	〃2~3	2.0
レタス カリフラワー きゃべつ はくさい	育苗中 { 本葉3~4枚頃 移(定)植3~4日頃 定植後活着時~結球開始迄	健苗育成	600	200	1	0.5
		活着促進	600	200	月に1~2	1.0
		生長促進と結球充実	500	400	〃2~3	1.5
セルリー パセリー	育苗中 { 本葉3~4葉時 移(定)植3~4日前 定植後活着時~生育最盛期 収穫7~10日前	健苗育成	600	200	1	1.5
		活着促進	500	200	1~2	1.0
		生育促進と品質向上	500	300	月に2~3	1.5
		鮮度保持	500	400	〃2~3	1.5
たばこ	育苗中 { 本葉4~5枚頃 定植3~4日前 定植後10~14日頃 可変栄養生長後期(定植後30日頃) 発蕾期(定植後50日頃)	根群充実・健苗育成	700	200	2~3	1.5
		活着促進	700	200	2~3	1.5
		葉数決定・葉質栄養充実	600	300	2~3	1.5
			500	300	2~3	1.5
		耐病性増強・品質向上	500	400	2~3	1.5
こんにゃく	展開期~完葉期 球茎肥大期及び生子肥大期	緑化促進と生育促進	500	300	2~3	2.0
		球茎肥大促進・マンナン含有量増加と荒粉・精粉の歩留り向上	500	300	2~3	2.0

■保証成分表(%)

	チッ素	水溶性リンサン	水溶性カリ	水溶性苦土	水溶性マンガン	水溶性ホウ素	鉄	銅	亜鉛	モリブデン
コーゲンGエース	6.0	3.0	3.0	2.0	2.00	1.00	0.50	0.07	0.08	0.21
コーゲン055エース	0	5.0	5.0	1.5	1.50	0.80	0.50	0.07	0.08	0.21



取扱店